ISSN 0289-9191

台湾情報誌

交流

2017年4月 vol.913
公益財団法人 日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association

アメリカ映画「Formosa Betrayed」と台湾の民主化

交流

2017年4月
vol.913

目次 CONTENTS

アメリカ映画「Formosa Betrayed」と台湾の民主化 …… 1
（戸張東夫）

台湾茶の歴史を訪ねる　第一回
（1）　埔里の紅茶工場 …… 7
（須賀努）

台湾情勢（2017年2月～3月）
台湾が直面する矛盾と挑戦
―「2.28事件」70周年，中国の圧力と情報工作― …… 11
（大磯光範）

交流協会事業月間報告 …… 17

※本誌に掲載されている記事などの内容や意見は、外部原稿を含め、執筆者個人に属し、公益財団法人日本台湾交流協会の公式意見を示すものではありません。
※本誌は、利用者の判断・責任においてご利用ください。
万が一、本誌に基づく情報で不利益等の問題が生じた場合、公益財団法人日本台湾交流協会は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

交流協会について

公益財団法人日本台湾交流協会は外交関係のない日本と台湾との間で、非政府間の実務関係として維持するために、1972年に設立された法人であり、邦人保護や査証発給関連業務を含め、日台間の人的、経済的、文化的な交流維持発展のために積極的に活動しています。

東京本部の他に台北と高雄に事務所を有し、財源も大宗を国が支え、職員の多くも国等からの出向者が勤めています。

アメリカ映画『Formosa Betrayed』と台湾の民主化

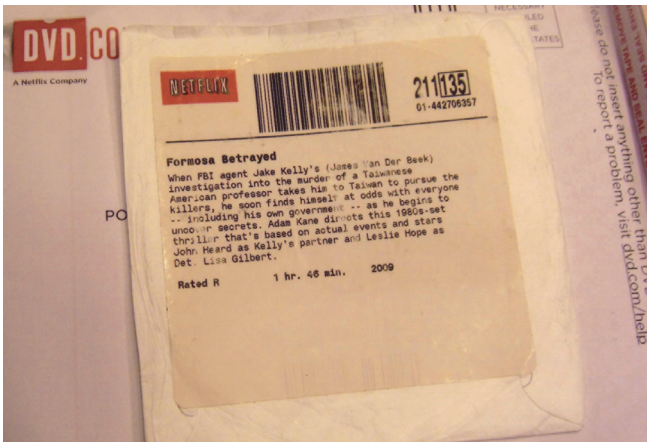
ジャーナリスト　戸張東夫

いつだったか、それほど前のことではなかったと思うが、『裏切られた台湾』というアメリカ映画のあることを耳にした。おそらくその時は何か別のことで頭の中がいっぱいで、この映画について調べたり考えたりする余裕がなかったのであろう。『裏切られた台湾』はそのままになってしまった。しかし気にはなっており観られるものなら観てみたいとひそかに思っていたのである。ずいぶん意味深長なタイトルだったが、何となくアメリカ映画らしからぬ題名だとか、タイトルに台湾とあるからにはやはり台湾に関する作品であるに違いないなどと想像していた。だがわが国で公開された形跡はなく、これでは DVD にもなっていないだろう。当面観ることはかなうまいと自分に言い聞かせ、なかば諦めた形になっていた。

ネットフリックスで発見した『Formosa Betrayed』

だが昨年末から今年（2017 年）初めにかけて米カリフォルニア州サンディエゴの娘夫婦のところに滞在していたときに『裏切られた台湾』をまたふと思い出した。地元アメリカなら多少古い作品でも、劇場で観ることは出来ないにしても DVD なら手に入るのではあるまいか。そう考えたのである。ありがたいことに娘夫婦はネットフリックス（NETFLIX）のメンバーだった。NETFLIX はオンライン DVD レンタルと映像ストリーミング配信事業会社でアメリカの最大手。日本にも進出しているから利用している読者もおられるかもしれない。まず NETFLIX の DVD リストをチェックするのが早道だろうと考えたのだが、気が付いてみると『裏切られた台湾』の原題、英語のタイトルが分からない。仕方がないのでタイトルに Taiwan（台湾）という語が含まれている作品を探したがリストには一本もなかった。

ところがその過程で『Formosa Betrayed』という作品が目に付いた。「Formosa」とは台湾の古い呼称で、欧米では今でも使われている。この作品



NETFLIX 独特の角封筒で送られてきた『Formosa Betrayed』の DVD。

シカゴの殺人事件を調べる FBI のジェイク・ケリー捜査官（ジェームス・ヴァン・デル・ビーク）（右）。
（NETFLIX・DVD 画面より。）

を素直に翻訳すると『裏切られた台湾』になる。そこで作品の解説を読んでみた。それによると製作されたのは2009年。監督はアダム・ケイン（Adam Kane)、出演者はジェームス・ヴァン・デル・ビーク（James Van Der Beek)、ウェンディ・クルーソン（Wendy Crewson)、ジョン・ハワード（John Heard)、ウィル・ティアオ（Will Tiao）ら。アメリカの映画人について筆者は詳しくないので、この中には知っている顔は一つもない。製作会社はFormosa Films及びLiving Filmsとある。この映画を製作する目的で作った会社かもしれない。ソニー・ピクチャーズ・エンタテインメントやパラマウント映画などのメジャーでないことはたしかだ。

内容は米国内で台湾系アメリカ人教授を殺害した犯人を追って米連邦捜査局（FBI）の捜査官が台湾に赴き真相を探るというもの。筆者の想像していたストーリーに近いが、これが果たして探し求めている『裏切られた台湾』なのかどうか断言することはできない。だがたとえこれが別の作品だとしても、こちらはこちらで面白そうではないか。というわけで『Formosa Betrayed』を指定したところ、翌日さっそくNETFLIX独特のDVDのサイズの白い厚紙の角封筒に入れて配達してくれた。これがオンラインDVDレンタルなのかとそのスピードに舌を巻いた。こうしてほとんど苦労しないで『Formosa Betrayed』にたどり着いたのだから便利な世の中になったものである。

さっそく作品を鑑賞させてもらった。1時間46分、なかなかしっかりした作品で、予想以上に面白かった。ポリス・ストーリーとしても楽しめるし、台湾現代史や台湾の政治に関心のあるファンにはそれなりの視点から見ることもできる。わが国のファンに是非とも観てもらいたい映画である。作品のあらすじを多少詳しく紹介するとともに筆者なりの解説や論評を加えておこう。

台湾の国際空港。容疑者の一人が“消される”現場にもなった。（NETFLIX・DVD画面より。）

米国内の殺人事件が台湾に飛び火

ドラマの舞台は1983年のアメリカと台湾。米中西部イリノイ州最大の都市シカゴでひとりの男が殺害された。地元の警察の調査によると殺されたのは市内の大学に勤務する台湾系アメリカ人男性教授で、台湾政府に公然と反対していたという。FBIが捜査した結果、台湾人の男二人組みの犯行と判明したが、二人はすでに国外に脱出し、台湾に帰った後だった。

外国人が米国内で犯した殺人事件は米国の主権にかかわる。FBIは新人で正義感の強いジェイク・ケリー捜査官を台湾に派遣する。その際FBIは「米台間には正式な外交関係がない。捜査活動は台湾当局にまかせ、観察と協力の姿勢で通せ」と厳しい指示を与えた。だが犯人逮捕と真相究明を自分の任務と考えていたケリーは、台湾で“越権行為”である捜査活動を断行し、台湾当局だけでなく、FBI当局とも摩擦を起こすことになってしまう。

ケリーが台湾にやってくると、FBIの捜査介入に対する台湾当局の反感が極めて強いことが分かった。犯人に関する情報はおろか捜査の進捗状況も一切教えてもらえなかった。ケリーはいわば蚊帳の外に締め出された格好だった。台湾の捜査

当局は時にはケリーの捜査を妨害するとしか考えられない行動を執ったりした。

たとえば独自のソースからの情報でケリーが事件の容疑者のひとりが潜伏している先を突き止めたので逮捕に向かったところ、台湾の捜査隊が一足先に来ており、容疑者を殺してしまった後だった。まるでFBIには何も知らせないといわんばかりだった。

台湾南部の工業都市高雄で反政府デモ。（NETFLIX・DVD画面より。）

台湾独立も民主化も反政府

ケリー捜査官は台湾当局に悟られないよう独自に捜査を進めた。するとこれまで気が付かなかった意外な政治的背景が浮かび上がってきた。

中国大陸における共産党軍との内戦に敗れ1949年台湾に逃れた国民党政権は戦後中国から国民党軍とともに台湾にやってきた人たち（外省人と呼ばれる）を中心に構成されており、台湾の中国化や中国と台湾の統一を望んでいた。これに対して戦前からの台湾住民（本省人と呼ばれる）は台湾を中国から切り離し、できれば台湾の独立を実現したいと密かに考えていた。台湾住民と政府の間には当初から台湾の前途にかかわるこのような深刻な対立の火種がくすぶっていた。そのうえ台湾当局の一党独裁による住民の強権支配が三十年以上も続いていたのだから台湾住民がいつまでも黙っているわけがない。台湾独立だけでなく民主化や政治改革を要求する反政府勢力がしだいに支持を広げていた。台湾政府はこれらの勢力を敵視し逮捕したり、暴力に訴えたり、時には暗殺するといった陰湿な手段で徹底的に鎮圧しようと動いているというのである。そういえばシカゴで殺害された教授も反政府の立場だった。

台湾政府のこうしたやり方はケリー自身の経験からも立証できそうだった。台湾南部の工業都市高雄で平和的な反政府デモに警官隊が襲いかかり、警棒を振るってデモ参加者を手当たりしだいに殴りつけ、見ていたケリーまでひどく殴られてしまった。だがこれなどまだいいほうだった。ケリーは二人の民主化運動活動家に捜査協力してもらっていたのだが、協力者の一人は何者かに殺害され、残るひとりは妻とひとり娘を殺されるという悲劇に見舞われる。FBIの捜査に協力したことが災いしたのである。

ところが高雄で反政府分子と接触したとしてケリー自身も台湾当局から帰国を命じられてしまった。

事件の背後に台湾政府の影

ケリーには事件に台湾政府が介入していることが次第に明らかになってきた。また政府高官も、帰国が決まったケリーにシカゴの事件に台湾政府が介入していると認めた。だがひとり残った容疑者の証言がケリーには必要だった。するとその政府高官はなぜかその容疑者の隠れ家を教えてくれたのである。隠れ家に行くとたしかに容疑者に会うことができた。容疑者は「安全にアメリカに連行してくれれば全てを話す」とケリーに持ちかけた。要求に応じたケリーが容疑者とともに空港に到着したところ、容疑者は何者かに狙撃され死ん

でしまう。口封じのために殺されたのだろう。ケリー捜査官は、容疑者をおびき出すために利用されたに違いない。こうして事件は闇から闇に葬られてしまったのである。

帰国したケリー捜査官は「アメリカ国内で台湾系アメリカ人が殺害されたにもかかわらず、台湾でFBIは捜査することもできず、殺害される危険のある協力者の反政府活動分子を助けることもできない。アメリカの正義にももとる。」という意味の抗議をして辞職してしまう。

「台湾政府が黒幕だ」と力説するケリー捜査官。(NETFLIX・DVD画面より。)

強烈な政治的メッセージ

わが国で未公開の作品ということもあって作品内容の紹介がかなり長くなってしまったが、これがこの作品のあらすじである。だがあらすじだけでは伝えることのできない以下の二つの重要なメッセージがこの作品に盛り込まれている。

(1) 台湾の本省人は戦後中国大陸からやって来た外省人の国民党独裁政権によって長い間苦しめられた。(ドラマには直接関係のない2.28事件にも触れている。)

(2) アメリカの台湾に対する政策は消極的で中途半端である。(ケリー捜査官の辞職の時の抗議の内容だけでなく、ラストに現れる「目下台湾を独立国家として承認している国は23カ国である。アメリカはこの中に含まれていない。」というコメントにも留意されたい。)というものである。

これら二つのメッセージが棒のようにこの作品を貫いているのである。きわめて政治色の強い作品というべきであろう。

＊　2・28事件は、1947年2月27日夜台北の露天でヤミたばこを売っていた老婦人が取締りの専売局員と警官に殴打されたのをきっかけに、外省人に対する本省人の不満が爆発した暴動。騒ぎは台湾全土に燃え広がり、六千人を越す死傷者を出したといわれる。この事件によって台湾の本省人と外省人の対立が決定的になってしまった。

＊＊　2016年12月アフリカのサントメ・プリンシペと断交したことから台湾と外交関係のある国は目下21か国となった。

これら二つのメッセージをこの作品のタイトル『Formosa Betrayed（裏切られた台湾）』に即して言い換えれば、台湾は国民党政権に裏切られ、さらにアメリカにも裏切られたということになるのであろうか。このBetrayed（裏切られた）という言葉のニュアンスが筆者にはあまりしっくりこないのだが。

ドラマの表面に現れない特徴をもう一つ指摘しておきたい。この作品を通じて台湾現代史や台湾の政治、社会についての理解を深めてもらおうという製作者の強い意図が感じられることである。製作者のこうした姿勢や熱意が、基本的にはエンターテインメントであるこの作品にある種のひたむきさを感じさせている。

蒋経国の台湾化政策が追い風に

ところでこの作品は本省人の視点から、本省人

に焦点を絞り、外省人政権の支配下における本省人の苦悩をテーマにしていることもあって、映画の中では本省人を中心とする民主化勢力がテロ攻勢によって息の根を止められてしまったかの印象を受ける。だが現実には台湾の民主化勢力は台湾の民主化と政治改革を短期間にしかも平和的に成功させたことで国際的にも注目されている。この作品の背景である1980年代初めの台湾の民主化と政治改革のかつてない盛り上がりを語らなければ公平を欠くというものであろう。

八十年代台湾の民主化運動や政治改革を語るには、1972年のニクソンショックに触れないわけにはいかない。ニクソン訪中による米中接近で資本主義陣営と社会主義陣営が地球的規模で対立していた冷戦構造があっという間に崩壊してしまった。冷戦構造が続いたおかげで台湾は社会主義中国に対する防波堤としてアメリカの強力な支持を期待することができたのだった。冷戦構造がなくなってしまったいまアメリカはこれまで通り台湾を支持してくれるだろうか。それが台湾政府にとって最大の問題であった。一党独裁による強権支配で住民を押さえつけていただけに、アメリカの支持が失われたら住民の反政府感情が爆発し、台湾政府の存続すら難しくなってしまう。台湾政府は住民と和解し、住民との距離を縮めておかなくてはならない。そこで当時の蔣経国行政院長（首相）は本省人の登用や政治参加、限定的自由化を断行した。蔣経国の台湾化政策である。

これはいわば上からの改革だが、これが追い風になって民主化や政治改革を要求する反政府勢力の急速な台頭を招いた。一部の反政府グループは『台湾政論』、『八十年代』、『美麗島』などの“政論雑誌”を刊行して言論活動を強化した。掲載された記事や論評が当局の逆鱗に触れて発行停止処分や没収されたりする事件が起こると、そのたびに別のタイトルの雑誌を創刊するというゲリラ戦術で対抗した。選挙を通じて政界にも進出してきた。

盛り上がる民主化、政治改革運動

七十年代末から八十年代初めにかけての時期の反政府運動の盛り上がりを端的にしめすのが77年の中壢事件と79年の美麗島事件である。この二つの事件は台湾の民主化闘争の歴史的モニュメントとしていまなお多くの人たちに語り継がれている。

中壢事件は77年11月の桃園県長選挙をめぐって発生した民衆暴動。国民党を除名された青年候補許信良と国民党候補欧憲瑜が県長のポストを争った。許信良は国民党の「一党独大」の弊害を批判し、外省人と本省人の差別撤廃など台湾の民主化を訴えた。ところが投票日当日中壢小学校の投票所で二人の老人が許信良に投票した票を同校校長で国民党員の主任監査員が汚して無効票にしてしまおうとしたのに怒った住民が警察署を包囲、襲撃する暴動になった。選挙の結果許信良候補の得票数は二十三万五千九百四十六票、これに対し欧憲瑜候補は十四万七千八百五十一票で、許信良候補が約九万票の大差で圧勝した。

一方美麗島事件は、国際人権デーの1979年12月10日夕方から翌11日午前零時半ごろにかけて台湾南部の工業都市高雄で、政論誌『美麗島』関係者を中心に約二万人の民衆が参加する集会、デモが行われ、警備当局と衝突、反政府勢力の大量逮捕を誘発した。高雄事件とも言われる。

『Formosa Betrayed』で、FBIのケリー捜査官が高雄で台湾独立を要求するデモに巻きこまれ、警官に警棒で殴打されるところがあったが、これは明らかに美麗島事件を意識したものである。

この時期になると民主化、政治改革を要求する運動は、大きな潮流となっており、政府がどんな方法で抑えようとしてももはや止め様がないという状況であった。だが、そんなときにミステリアスなテロ事件がおき、台湾社会を震撼させた。それも一回ではなかった。

美麗島事件で服役中の被告の一人林義雄省議会議員の留守宅が襲われ、林議員の母親と二人の娘が惨殺される事件（1980年）、台湾に一時帰省中の米カーネギー・メロン大学助教授の陳文成氏の台湾警備総司令部の取調べ後の変死事件（1981年）、『蔣経国伝』を出版した蔣一族に批判的な米国在住の作家江南暗殺事件（1984年）と続いたのである。江南暗殺事件は、米国側の調査もあって殺人の実行犯二人は台湾の暴力組織「竹聯幫」のメンバーで、さらに国防部情報局長ら台湾政府当局者が介入していることが明らかになった。この事件では米下院が決議を採択して、実行犯の引渡しを要求する事態になった。その他の事件はいまなお謎に包まれている。

『Formosa Betrayed』がテロ事件を再現

映画『Formosa Betrayed』は状況や人物設定などを変えてこれらのテロ事件を再現している。このようなテロ事件に当時台湾住民は国民党政権が再びかつてのような強権政策に戻るのではないかと一時緊張したが改革のペースを変えることはできなかった。

民衆側の改革要求に押される形で政府当局の改革の動きも加速した。蔣経国総統は本省人登用政策に基づき78年副総統に初めての本省人謝東閔を副総統に任命、さらに84年総統連任に伴い本省人の李登輝副総統を任命した。これは蔣総統が後継者に本省人を選んだという意味である。また反政府派は禁令を犯して86年9月本省人の党民主進歩党を発足させた。数年前であったら武力で解散させられたに違いないが、政府は「承認もしないが、取締りもしない」という態度でこれを黙認した。

そして1987年7月１５日台湾政府は国民党軍が台湾にやってきた1949年以来三十八年間もの長期にわたって実施してきた戒厳令をついに解除したのである。

「1986年下半期以降、抗議デモ、請願、自力救済など様々な形態の活動が続発するようになった。それまで無言だった台湾の街頭は、突然賑やかになり始めた―労働運動、学生運動、環境保護運動、女性運動、消費者運動、返郷（外省人の大陸への里帰り）運動などがそれである。国民党が台湾に来て以来四〇年間、一度もお目にかかれなかった様々な形態の運動が、『自由化』が始まった二年間に次々と起こったのである。」

戒厳令解除をひかえた台湾の活気に満ちた状況を誇らしげに語ったのは改革派の評論家李筱峯氏だ。

＊　李筱峯著、酒井亨編訳『台湾・クロスロード』日中出版、1993年11月、206頁。

＊＊　1980年代台湾の民主化、政治改革について詳しくは戸張東夫『台湾の改革派』亜紀書房、1989年11月参照。

最後に蛇足ながら一言。この映画が製作されたのは2009年である。台湾は1991、92両年12月それぞれ国民大会と立法院の台湾地区だけの全面改選を実現、96年総統選挙を実現し民主化（民主的移行）を完成した。2000年に民進党の陳水扁氏が総統に選出され、二期八年の間総統職にあり国民党と民主進歩党の政権交代も実現した。この時期に敢て本省人の立場から外省人を厳しく告発する作品を発表する必要はないのではないかとも思う。だが『Formosa Betrayed』はかなり政治色の強い映画である。2009年の総統は国民党の外省人馬英九氏だったから何か政治的意図があったに相違ない。

（2017年3月11日）

台湾茶の歴史を訪ねる　第一回

（1）　埔里の紅茶工場

須賀　努（コラムニスト / 茶旅人）

お茶をキーワードとした旅、茶旅を始めて 15 年以上が経った。お茶は非常に有効なキーワードであり、単においしいお茶を求めるだけでなく、茶農家や茶園、卸市場などを訪ねることにより、その国、その地域の経済、社会、文化、歴史、生活習慣、農業政策など、様々な側面を垣間見ることができる、極めて便利な言葉だと言える。

台湾茶の歴史、という観点から見ると、外貨を獲得するための輸出の歴史という面が大きく、台湾人が高価なお茶を飲み始めたのは、ごく最近のことだ。日本統治時代も、日本人が飲むためでもなく、ましてや台湾人に飲ませるためでもない、輸出用、外貨獲得用の戦略物資として、茶は作られている。当時の総督府も茶業を奨励し、日本国内から優秀な研究者が派遣され、茶業の発展に努めている。

日本人も近年台湾好きが増えてきた。だが台湾と日本は歴史的に一体どんな繋がりがあるか、日本統治時代に日本人はこの島で何をしていたのか。我々はもう少しその面をよく見る必要があるように常々に感じている。今回はお茶を通して見えてきた台湾を紹介してみたい。

台湾紅茶の守護者

台湾中部の観光名所、日月潭。そのすぐ脇に貓囉山という高台がある。そこに登ると、眼下に日月潭が一望でき、何とも言えない素晴らしい風景に遭遇できる。そこには日本統治時代に建てられた茶業試験場が、今も茶業改良場魚池分場として、残されている。職員に案内してもらうと、『もし日月潭好きの蒋介石がこの場所を知っていたなら、接収して彼の別荘にしてしまっただろう』という程の風景が広がっている。

またここには『台湾紅茶の故郷』という石碑も置かれており、日月潭と反対側を眺めると『あそこは日拠時代、渡辺さんの茶畑だった』などという言葉が出てきて驚く。今もなお、茶畑を見ることができ、更に改良場のオフィスの裏側には、1938 年に建造された古い茶工場が、現役の工場として、その優美な姿を留めている。中に入ると、下駄箱や階段の手すりに、古き良き日本を感じて、懐かしさを覚える。よくぞここまで丁寧に使い続けてくれていると、感謝したくなるほど手入れが行き届いている。

茶業改良場魚地分場　1938 年に建てられた茶工場

ここは日本統治時代、紅茶製造の拠点として設けられた紅茶試験支所だったのだ。イギリスがインドやスリランカで行ってきたプランテーションと同様、日本も台湾で、外貨を獲得するために、紅茶の輸出を目論んでいた。当時、いや最近まで台湾人が紅茶を飲む姿は想像できなかった。

この改良場へ向かう坂道を車で登っていくと、途中に日本人の名前が見えたような気がして停まってもらった。そこには『故技師新井耕吉郎紀念碑』と書かれた碑が建っている。新井とは一体誰なのだろうか。興味が沸いたので調べてみたことがある。新井氏は 1925 年に北海道帝国大学を卒業後、台湾に渡り、総督府の安平鎮茶業試験支所（いわゆる本場）に就職。茶葉の品種改良などの研究で大いに貢献する傍ら、紅茶製造の適正地を探し、台湾各地を調査、

最終的に貓囉山に辿り着き、1936年に魚池紅茶試験支所を開設、その後日本人最後の支所長を務めた人物だと分かった。

新井氏が支所長に就任した頃は、既に太平洋戦争に突入しており、元々欧米へ輸出するために作られ始めた台湾産紅茶の行き場は既に無くなっていた。食糧事情が厳しき折、茶畑を野菜畑に変えろとの要請もあったようだが、折角植えた茶樹を守り抜いたという。それが彼をして『台湾紅茶の守護者』と言われる所以である。

茶業改良場魚地分場　新井耕吉郎氏胸像

終戦後、試験場は台湾政府に接収され、ほどなくして新井氏はこの魚池で病のため亡くなっている。当地の茶業関係者以外に新井という名を知る者はなく、長い間、歴代の改良場分場長が紀念の石碑に拝礼するだけだったという。新井耕吉郎とは一体どんな人だったのだろうか。

当時新井氏と一緒に試験所で働いていた楊守国さん（当時90歳）を6年ほど前、訪ねたことがある。新井所長との思い出を聞くと『台湾人の若造の自分が所長と接することなど正直殆どなかった。だが見掛けるといつも厳しい顔をしていたのは思い出す。今考えてみると、茶畑を如何に守るか常に考えていたんだろう』と言い、『新井さんが亡くなった時、夜同僚が茶畑の方へ飛んでいく蛍を見かけて、「所長は今日も茶畑の見回りに行ったんだな」と言っていたのが強く印象に残っている』と話してくれた。新井氏は責任感の強い、実直な人だったと推察できる。

その楊さんは光復後も、茶業改良場で働き、台湾の紅茶品種、台茶8号の開発に関わったという。台湾の紅茶は50-60年代に輸出の最盛期を迎え、新井氏の望みは楊さんたちに受け継がれたと見てよいだろう。だがその後は輸出競争力が無くなり低迷。1999年の大地震後、街おこしの一環として、日本時代の茶樹の葉で作った紅茶と日月潭という名所の名前を組みわせて、日月潭紅茶として見事に復活した。最近の台湾の紅茶ブームを楊さんはどう見ているだろうかと尋ねたくなり、再訪しようとしたところ『残念ながら1週間前に亡くなられた』と聞き、愕然となった。台湾茶の歴史がまた1つ流れ去ってしまった。

新井氏と働いた台湾人　楊守国さん（中央）

埔里の東邦紅茶

台湾中部に埔里という街がある。一時は日本人ロングステイヤーを誘致しようとしたほど、穏やかで空気がよい、抜群の環境を持つ山に囲まれた静かな街である。山を登れば『セデック・バレ』という映画で有名になった霧社事件の霧社があり、更に登っていくと、現在の台湾高山茶の最高峰、梨山まで行ける。山と反対に行けば、魚池、日月潭と繋がり、更に凍頂烏龍茶の鹿谷、杉林渓に辿り着く。お茶好きにはたまらないロケーションにあるのが埔里である。

その埔里の街中を歩いていると、古びた門に出くわした。『東邦紅茶股份有限公司』と書かれているが、ちょっと中を覗くと、向こうに見える建物は崩れかけており、かなり前に廃業した茶工場だと思ってしまった。そのことを、台中を中心に茶学スクールを運営し

ている講茶学院の湯家鴻氏に話すと、『東邦は今でもお茶を作っているよ』と言われて、ビックリ。慌てて案内を請い、車で門を通った。その崩れかけた建物の後ろにも建物があり、そちらが茶工場になっていた。ここの３代目、郭瀚元氏に聞くと『実は1999年の地震の時、門に近い1970年代に建てた建物は壊れたが、1950年代に祖父が建てた物はビクともしなかった』との説明があり、この話を聞いて、その創業者で彼の祖父である郭少三に大いに興味を持った。

東邦紅茶３代目 郭瀚元氏（郭少三氏が建てた茶工場で）

郭家は少三氏の祖父、郭春秧が福建省で貧しい生活から立ち上がり、その後ジャワなどで成功を収め、『南洋の４大砂糖王』とも呼ばれた。香港の北角には、今で春秧街という道が残っているほど、有名だったという。台湾にも事業を拡げて、錦茂茶行を設立、台北茶商公会の設立にも寄与し、会長を務める等、茶業の発展にも尽力した人であった。士林の郭家として名を留めている。現在台北で見られる郭元益というお菓子屋さんは、その一族だと聞いている。

少三氏は11歳の時、茶行の支配人をしていた父を亡くし、13歳で叔父である郭邦光に連れられて日本へ渡った。京都三高から東京帝国大学農芸化学科に進み、1932年に台湾に戻る。台北帝国大学で山本亮教授の指導を受け、茶樹の育種、改良などを学んでいたが、当時の総督府の茶業奨励策を見て、自ら茶業に乗り出す決意を固める。

それまで日本が台湾に持ち込んだアッサム種とは違う品種を求めて、1933年に単身タイのチェンマイへ行き、そこから山中に分け入るも、病に罹り、一時帰国。しかし再度挑戦して、山中放浪１か月を経て、ついに紅茶製造に適した品種、シャン種を発見し、台湾に持ち帰った。シャン種とはアッサム種の亜種と思われるが、台湾では独自の品種として分類されている。そして紅茶生産の最適地を探し、埔里に辿り着く。埔里郊外に土地を確保して、茶樹を植えた。埔里の街中に念願の茶工場を建造したのは1939年、本格的な茶生産に入る。

郭少三氏が発見したシャン種

1935年当時、魚池で紅茶を製造していたのは、日本資本の３社のみ。東邦紅茶はこの地区では台湾資本初の紅茶会社であった。その後総督府の奨励策により、1940年には合計11社が投資認可されているが、台湾資本はやはり東邦だけであった。因みに日本の投資者の中には東急の五島慶太の名前もあり、その当時台湾における紅茶製造に大きなビジネスチャンスがあったこととみられていたことが窺われる。

ところが時局は紅茶の輸出を止めてしまった。太平洋戦争が勃発すると、主要輸出先であったヨーロッパ、アメリカと戦闘状態になり、輸出などできるはずもなく、製茶どころか前述の新井氏が茶樹を守ることに奔走する事態となるのである。折角花開きかけた紅茶生産は一気に停滞した。

しかし戦争が終結し、日本が奨励した台湾紅茶に最盛期が訪れたのはある意味、皮肉なことである。1950-60年代、東邦紅茶も紅茶生産に邁進したが、その後は徐々に国際競争力を失い、表舞台からその姿

は消えて行った。少三氏が通風を患った1980年以降は、茶の製造を縮小、スリランカなどから輸入した紅茶を販売したり、安い茶飲料を製造してきた（因みに台湾で初めて簡易な茶飲料を発売したのは東邦と言われている）。この茶飲料は当時かなり売れ、埔里付近の人々は皆東邦紅茶の飲料を飲んだことがあるという。

そして少三氏がこの世を去った1年後、地震で工場も崩れ、既に生産は完全に止まっていた。2011年に孫で、日月潭で遊覧ボートの仕事をしていた瀚元氏が工場を継ぐこととなり、祖父が発見して育てたシャン種を使い、伝統的な東邦紅茶の再生を図っている。シャン種で作られた紅茶は渋みもなく、飲みやすく、これまで飲んだことがない独特のお茶だった。

埔里郊外、小埔社という、車で15分、海抜500mほどの高台にその茶畑はあった。そこは台湾というより、インドを想起させる茶畑。一株一株がしっかり根を張った茶樹。大きな葉はアッサム種に近く、中には80年前に植えられ、そのまま成長した喬木もいくつか見られた。『20年ほど放置したため、かなりの喬木になったが、茶摘みに不便なので、一部を切り、茶樹を低くした』そうだ。

その高い茶樹の前に立つと、少三氏の息吹、情熱が伝わってくるようで、心が沸き立つのを押さえられなかった。因みに晩年の少三氏を知る従業員にその印象を聞くと『まるで日本人のような精神を持つ、実に厳粛な人で、ちょっと怖かったよ』と笑いながら話してくれた。その姿は魚池試験場の新井氏を思い起こさせるが、2人に接点があったかどうかを知る資料はない。ただ狭い茶業界のこと、育種や品種の改良について、きっと熱い議論を日本語で交わしていたに違いない。

実はもう一つ気になっていたものがあった。それは工場の向こうに見えた瀟洒な建物。聞いてみると『あれは宿舎だ』と言われたが、どうみてもワーカーが住むような家ではない。かなり古い建物でもある。家の中に案内されてびっくり。まるで昭和レトロな玄関、そしてピアノのある洋間、更に奥には畳の部屋まである。ここが少三夫妻の暮らした家であり、少三氏が集めた茶や農業関係の日本語の本がそのまま残っていた。まるで郭少三が生きているかのような雰囲気がそこにあった。

てっきり今は誰も住んでいないものと思っていたが、そこへ住人が帰ってきた。その女性はハッキリとした日本語で『いらっしゃい』と言った。見るからに品の良い、この方が少三氏の奥様、郭張月雲さんであった。彼女は台北第三高女を卒業後、1938年に少三氏と結婚。とても98歳には見えない、凛としたハリが感じられた。少三氏の後、東邦紅茶を実質的に切り盛りしてきたのは、実はこのお婆様であったらしい。

郭少三夫人 郭張月雲さんと

因みに瀚元氏と話していると『そういえば、先日お婆様を訪ねて、日本の有名な歌手の姉という人が来たよ』という。その名前を聞いてみると、何と人気歌手一青窈さんの姉、医師で作家の一青妙さんだと分かった。実は少三氏の妹、郭美錦さんが基隆の顔家という台湾の5大財閥の1つに数えられる名家に嫁いだが、その孫にあたるのが一青姉妹だという。台湾はやはり狭い、そして日本との繋がりは実に深い。

郭少三がタイから持ち帰り植えたシャン種の喬木茶樹

台湾情勢（2017 年 2 月～ 3 月）

台湾が直面する矛盾と挑戦
－「2・28 事件」70 周年，中国の圧力と情報工作－

日本台湾交流協会台北事務所専門調査員
大磯　光範

1．「2・28 事件」70 周年

1947 年に発生した「2・28 事件」より，本年で 70 周年を迎える。この期間において，台湾は民主化を達成し，三度にわたる政権交代を混乱なく実現した。70 年の時を経て，台湾は「アジアにおける民主の優等生」と称されるまでの変化を遂げた。また，民主化の趨勢に伴い，住民は公定の「中国アイデンティティ」から解き放たれ，自身を台湾人であると規定する「台湾アイデンティティ」の勢いが強まっている。特に若者にそうした傾向は強く見られ，両親や祖父母の出自に関係なく，自身を台湾で生まれ育った台湾人であると考えることに疑念を挟まない。「本省人」と「外省人」という台湾社会に存在し続けた亀裂「省籍矛盾」は，世代を超えて徐々に埋められつつある。

しかし，「2・28」事件は現在尚も台湾社会に暗い影を落とし続けている。蔡英文政権は「闘争ではなく，和解のための」移行期正義の実現を掲げ，毎年 2 月 28 日を「国家が最も団結する日となることを望む」とする。しかし，被害者に対する名誉回復や賠償の問題に止まらず，事件発生の責任を誰に帰すかという「加害者」の規定も含み，解決すべき問題は山積している。

（1）蔡英文総統が「二二八 70 周年中枢記念儀式」に出席

2 月 28 日，「二二八 70 周年中枢記念儀式」が台北市内の 228 公園にて開催され，蔡英文総統が出席した。蔡総統は式辞冒頭において，元国史館長であり，「2・28 事件」に関するオーラル・ヒストリーの研究分野を築いた張炎憲 を紹介し，「（事件の）被害者があるのみで，加害者は存在しない」という状況を変えたいと望んだ同人に対し，「天国におられる張先生に，我々は先生の未完成の事業を引き継ぎ，更に前進させていくことを伝えたい」と述べ，以下の具体案に言及した。

①中正記念堂の「転換」

2 月 25 日に文化部が提起した中正記念堂の転換に関する構想に触れ，「70 周年であり，（転換の）時期を迎えた。台湾社会は，本件について議論するための成熟した民主的メカニズムを有していると信じる」と述べた。

②政治文献の精査

「2・28 事件」関連及び白色テロの時期における自白や供述関連の調書，内偵資料，判決資料，公文書等を精査し，判読を進めた上で，「移行期正義に関する調査報告」作成の基礎とする旨表明。また，同報告において「2・28 事件」の処理に関する専門項目を設けるとし，かつ，「2・28 事件」の責任の所在を追求することを「最も厳粛な態度により」とり行うとした。

③「移行期正義促進条例」の審議

行政院と立法院民進党団が討議し，「移行期正義促進条例」を立法院第 3 会期での優先法案とすることを決定したと紹介した上で，「『移行期正義』

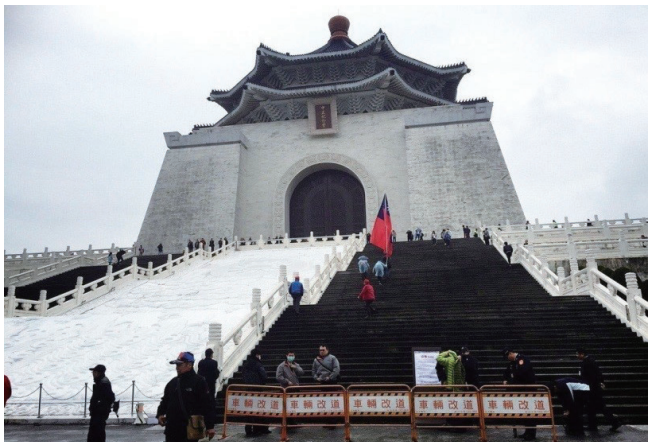
1　張炎憲（1947-2014）：台湾史研究家。東京大学博士課程修了後，中央研究院をはじめ，台湾各地の大学・研究機関で教鞭をとる。2000 年，当時の陳水扁総統に任命され，国史館館長に就任。『二二八事件責任帰属研究報告』（台北：二二八事件記念基金会，2006）等，「2・28 事件」に関する著作多数。

2　2 月 25 日，鄭麗君・文化部長は，中正記念堂は権威主義者により建立されたものであり，歴史の真相を追究する過程において，同記念館の転換を推進する必要があると表明。

の目的は和解であり，闘争のためではない」と表明した。

（2）「2・28 事件」を巡る台湾社会の動静

2 月 28 日は，70 年前の事件を巡り多様な主張や示威行動が台湾各地において展開される日であり，台湾社会の歴史的亀裂が鮮明に現れる日でもある。相互に対立する主張の焦点となるのは，上記蔡総統も言及した「責任の所在」である。台湾独立を志向する勢力は，往々にして蔣介石元総統を事件の「元凶」と見る傾向があり，例年，中正記念堂のある自由広場での示威活動や，蔣の銅像に対する破壊行為等が発生している。70 周年を迎えた本年 2 月下旬には，台北市近郊のみでも以下の事例が発生した。



①中正記念堂前での衝突

2 月 27 日，鄭麗君・文化部長は，「2・28」記念活動の尊重及び社会的対立を回避するため，2 月 28 日は中正記念堂を終日閉館とし，同記念堂の「転換」を巡る法規修正が完了する以前において，閉館措置は毎年実施する旨発表した。しかし，蔡丁貴・自由台湾党党首 をはじめとする蔣介石否定派（中国語：反蔣）は，記念堂前の自由広場において中華民国旗を燃やし，蔣介石像を引き倒すことを企図した。これに対し蔣介石の功績を肯定する勢力（中国語：挺蔣）も同広場に赴き，否定派との衝突が発生した。肯定派は中国との統一を主張する中華統一促進党 のメンバーが中心であり，このうちの 3 名が警察官を殴打し送検される等の騒擾に発展した。

②大学構内での蔣介石像に対する破壊行為

28 日早朝，新北市の輔仁大学校内において，数名の学生が蔣介石像を鋸で切り倒すことを企図し，警察が制止した際に双方で衝突が発生した。調べに対し学生は，自身の行動は「キャンパス内の移行期正義」であり，「2・28 事件」発生後 70 周年を迎えても政府は未だに成すべきことをしておらず，民衆自身が行動しなければならないと語った。

（3）国民党の反応

「2・28 事件」を巡り各種の主張が為される中，「責任の所在」と目される国民党は以下の反応を示す。洪秀柱・同党主席は宜蘭で行われた退役軍人協会会員大会に出席した際，「歴史的事実の追求は誰もが受け入れられるが，それを利用し社会の分裂や対立，憎悪を生み出すことは許されない。一部の人は同事件を利用して中華民国の立国の基

3　同条例は，権威主義体制期（1945 年 8 月 15 日～ 1991 年 4 月 30 日）を移行期正義の対象とし，1. 政治文書の開放，2. 権威主義の象徴の一掃と関連史跡の保存，3. 司法の不公正の是正，歴史的真相の追求，社会的和解の促進，4. 不当な党資産の処理，5. その他移行期正義関連事案を実施するものとされる。

4　蔡丁貴：1949 年高雄市生まれ。台湾大学土木工程系兼任教授。米国留学時に「党外活動」に関わったため，国民党政府によりブラックリストに記載されたが，1990 年に帰台。2002 年，陳水扁元総統の招請により行政院環境保護署副署長等を歴任。2015 年 4 月，台湾独立を目標とする自由台湾党を創設した。

5　中華統一促進党：台湾の暴力団組織「竹聯幇」の中心人物である張安楽（通称：白狼）を党首とし，「一国二制度」による中国との平和統一を主張。

6　台湾民主自治同盟（台盟）：1947 年 11 月 12 日に香港において成立した中国の「8 つの民主党派」（執政党である中国共産党と共に，政治に参与する政党とされる）の一つ。

礎を破壊することを望み，（「2・28 事件」を巡る）社会的な事件の発生を利用し，中国国民党がこの土地で行ってきた貢献の記憶を徹底して葬り去ろうとしている」と言及し，蒋介石を「元凶」と見なして銅像を破壊する言動を非難した。

（4）中国でも「2・28 事件」70 周年記念式典が開催

2 月 23 日，台湾民主自治同盟 中央は，北京にて「台湾人民『二二八』蜂起 70 周年記念座談会」を開催し，林文漪・同主席（全国政治協商会議副主席）が講話を発表した。龍明彪・国務院台湾事務弁公室（以下，国台弁）副主任，蔡国雄・北京市政治協商会議副主席他，中央統一戦線部，国務院台湾事務弁公室の関係者及び学者が出席した。林主席は式辞において，「70 年前の 2 月 28 日，英雄的かつ愛国的な台湾人民は，国民党当局の独裁統治に反対する愛国民主運動を発動し，祖国大陸の人民が展開した反飢餓，反迫害，反内戦運動に呼応し，全国の同胞による愛国民主運動の巨大な潮流と結合した」と述べた。また，目下の台湾当局は「92 年コンセンサス」の承認を拒絶し，両岸が「一つの中国」に属することを認めておらず，少数の人間が「2・28 事件」の歴史的真実を歪曲していることは，台湾同胞を含む全中華民族の利益を最終的に損なうものとなるとして批判した。

※中国当局による「2・28 事件」の認識

2 月 22 日，安峰山・国台弁報道官は記者会見において「2・28 事件」に対する中国側の認識を以下のように述べた。

70 年前に発生した「2・28 事件」は，台湾同胞が専制統治に反対し，基本的権利を勝ち取ることを試みた正義の行動であり，中国人民解放闘争の一部分である。長期にわたり，同事件は「台独」分裂勢力の企みにより利用され，歴史的事実を歪曲し，省籍矛盾を煽り立て，台湾の族群を引き裂いて社会の対立を生み出し，「台独」分裂活動を騒ぎ立てようと利用されてきた。その下心は非常に卑劣なものである。

2．中国「全人代」における台湾関連発言

台湾海峡両岸関係は，台湾の内政，対外関係，経済に巨大な影響を及ぼす。昨年 5 月 20 日に蔡英文政権が誕生して以来，中国政府は「一つの中国」の考え方を含む「92 年コンセンサス」に対する民進党政権の認識が曖昧であるとして，両岸当局間の公式な連絡メカニズムを基本的に停止させている他，中国人観光客による訪台旅行を制限する等経済面の圧力をかけ，また，昨年 12 月には台湾と国交を有する西アフリカのサントメ・プリンシペに働きかけて台湾との断交を促し，その 5 日後に中国との国交を樹立する等，外交面においても攻勢の姿勢を強めており，台湾は多方面における中国からの圧迫にさらされ続けている。低迷する両岸関係の下，3 月 5 日より北京の人民大会同で開催された第 12 期全国人民代表大会第 5 回会議（以下，全人代）における中国側指導者による台湾関連の発言は，国民党政権下の昨年に比較し厳しい表現が際立った。

（1）李克強総理の発言

李克強総理は全人代開幕式において政府活動報告を行い，台湾関連部分において以下のように述べた。

> 我々は対台湾工作の重要な政策方針を深く貫徹すべきであり，「一つの中国」原則を堅持し，「92 年コンセンサス」という共同の政治的基礎を擁護し，国家主権と領土の保全を擁護し，両岸関係の平和的発展と台湾海峡の平和と安定を擁護しなければならない。「台独」分裂活動に断固として反対し，これを抑制し，如何なる人物による，如何

なる形式，如何なる名義によるものであろうと，台湾を祖国から分裂させることを絶対に許さない。

両岸経済･社会の融合的発展を持続的に推進し，台湾同胞，特に青年層の大陸における学習，就業，起業，生活に対しより多くの便宜を提供する。両岸同胞は民族の大義を共に担い，祖国の平和的統一のプロセスを確固として推進し，全ての中国人の幸福な生活とより良い明日を共に作り出さねばならない。

2016年の同報告においても「92年コンセンサス」の堅持や「台独」反対の堅持については触れられていたものの，昨年には「両岸は一つの家族（中国語：両岸一家親）」といった比較的温和な表現が用いられていた。これに比較し，本年の報告は目下の両岸関係に対する憂慮が以下の言及に現れている。

①「如何なる人物による台湾分裂活動も絶対に許さない」

中国当局は，良好な両岸関係の基盤を，台湾側が「一つの中国」原則を認めるか否か，即ち「92年コンセンサス」を承認するか否かに求めている。国民党政権は,「一つの中国, 各自表述」(一中各表)としながらも，海峡両岸が「一つの中国」に属するものである表明していた。蔡英文総統は，総統就任演説において「1992年に海峡交流基金会と海峡両岸関係協会が行った会談の歴史的事実を尊重する」と述べたものの，中国側はこれを「未完成の答案」として不満の意を表明した。「92年コンセンサス」に対し，民進党政権が曖昧な態度をとり続けていることに加え，昨年12月には，米国大統領に当選したドナルド・トランプが「『一つの中国』を含む全てが交渉の対象」と述べる等，台湾を巡る外部の動向も中国側が焦燥を募らす要因となっていることが考えられる。

②「台湾青年の大陸でのより多くの便宜を提供」

上記と同時に，李総理は台湾の民衆，特に青年の大陸での生活により多くの便宜を提供すると発表した。中国政府は数年前より，中国各地に「海峡両岸青年創業基地」を設置し，台湾人青年を誘致して大陸での就業や起業を奨励する等，多様な優遇措置を打ち出している。昨年及び一昨年の李克強総理による政府活動報告において，青年関連の言及が「両岸の青年交流を強化」するとの表現に止まっていたことに比較し，より具体的な言及がなされている。この背景には，若年層の台湾人の「中国アイデンティティ」が年々弱まる傾向を見せており，民進党政権下で台湾青年の「中国離れ」が更に進むことに対する中国側の憂慮があるものと見られる。

（2）張志軍・国台弁主任の発言

本年の全人代会期中においては，台湾に対しより強硬な発言も見られた。全人代台湾省代表団全体会議において，張志軍・国台弁主任は「台独の道が行き着く先は統一（中国語：台独之路走到尽頭就是統一）」と発言し，また，このような統一

の方式は台湾社会と民衆に傷をもたらすものとなり，「彼ら（台湾独立派）は巨大な対価を支払うことになる」として，台湾独立の動向が強まれば武力による統一も辞さないという中国側の姿勢を示唆した。張主任は目下の両岸関係について，本年の両岸関係が直面する最大の挑戦は台独勢力の蠢動にあり，こうした分裂行動に対する有効な抑制が効果を得られなければ，両岸関係の平和的発展と台湾海峡の平和と安定に対し，非常に直接的かつ重大な脅威をもたらすと言及した。

（3）台湾側の反応

張志軍・国台弁主任の強硬な発言に対し，台湾当局側は不快感を表明している。林全・行政院長は，目下の両岸関係の現状について蔡英文総統は十分に説明を行っていると述べた上で，非理性的な議論がなされないことを望むと言及。また，張小月・行政院大陸委員会主任委員は，張主任の発言を「非常に不適当」であると非難し，両岸関係の改善に一切の助力となるものではないと表明した。

これらに加え，台湾側は「匿名による政府高官」が張主任の発言に対する痛烈な批判を展開した。3月7日夜，同高官は張主任の発言を「悪意に満ちており，非常に不適当」なもので，同様の発言が曾て外交官を務めた者より発せられるとは信じがたいと非難。更に張主任の対台湾施策に対し，台湾人は（張主任に対する）実際にそぐわない期待を寄せるべきではなく，両岸関係が今日に至るまで改善を見ないことについて，張志軍がその責任を完全に負うべきであると批判した。

３．中国のスパイ事件と元民進党職員の大陸での拘束

台湾は，両岸当局間での政策レベルにおいて中国側から巨大な圧力にさらされているのみならず，台湾内部においても中国による対台湾浸透工作の脅威に直面している。浸透工作の一例は「中国共産党のスパイ（中国語：共諜）」案件である。民進党寄りと見做される台湾紙「自由時報」による3月13日付の報道は，台湾内部に存在する中国のスパイの数は約5000人に上り，これらスパイによる浸透工作は，以前は軍事部門に集中していたが，政府に対する浸透状況は軍事部門に比して少ないものではないという台湾国家安全機関の見立てを紹介した。法務部調査局の発表によると，2008年以降検挙された中共のスパイは55件に上るが，これは氷山の一角であるとの見解を示している。スパイによる情報工作を含め，中国による台湾に対する浸透は長年にわたり実施されており，台湾側は情報保全政策の立法化等による対応の必要性に迫られている。しかし，権威主義体制における情報保全の名目の下，厳しい監視・統制と人権抑圧の現代史を有する台湾社会にとり，情報保全法は非常に機微な問題であり，本件は国体への脅威と人権擁護という二つの価値観による葛藤を生み出している。

（1）周泓旭事件

3月10日，台北地方検察署は，2016年に政治大学にて修士号を取得した29歳の中国籍男性・周泓旭を逮捕した。周は在学期間中より台湾の政府職員と知己を得るなどの活動を始め，大学卒業後の本年2月以降は「投資経営管理」の名目により台湾滞在を続け，中国資本の企業である台湾詠銘国際公司の理事となった。この期間に各種の情報を探る活動に従事し，台湾において中国の諜報組織を発展させたとされる。捜査の結果，周は台湾外交部職員に対する工作を企図し，同職員を日本旅行に誘い出して外交機密資料の入手を企図し，謝礼として台湾外部における米ドルでの報奨金を渡そうとした等の嫌疑がかけられている。同事件は，昨年最高法院により懲役2年10ヶ月が

確定した元人民解放軍空軍大尉・鎮小江の事件との類似性が指摘されている。鎮は2009年から2012年に台湾軍関係者2名を国外旅行に招待した上で，中国情報機関が設宴した宴席の場において，上記2名に台湾において中国諜報組織を発展させるよう要求したとの嫌疑により，反国家安全法に基づく刑が確定した。接待を受けた台湾軍側の2名も同法に違反した容疑で検察により起訴された。

台湾法務部調査局は，台湾は長期にわたり「中国共産党のスパイ，外国のスパイ，サイバー攻撃，テロリズム」という4つの脅威に直面しており，情報保全法の立法化による国家利益を擁護する必要性を指摘している。

（2）元民進党職員・李明哲が中国大陸で拘束

周泓旭事件発生の9日後，元民進党職員であり，NGO活動家の李明哲が中国において連絡を絶った。台湾当局は，両岸間の連絡メカニズムにより中国側に対し同人の安否確認を要求したが，台湾側及び李の家族に対する中国側からの通報は無いとされる。3月29日，馬曉光・国台弁報道官は，李は中国において国家の安全に危害を加える活動に従事した容疑により拘束され，関係部門による調査を受けている旨明かした。報道によると，李はマカオから広東省珠海市への通関において拘束された。拘束理由について，中国の人権派弁護士と接触したこと等が原因とされている。

（3）中国の対台湾浸透工作と「保防法」

中国による浸透工作の圧力を受け，台湾社会においても情報保全に対する必要性が認識されつつある。昨年10月，自由時報は「台湾が強度の浸透にさらされている問題を正視すべき」との社説を掲載した。法務部調査局は，社説が掲載された同日にプレスリリースを発表し，以下の見解を示した。

2004年以来，調査局は情報保全活動（中国語：保防工作）の法制化を推進しているが，歴史的環境等の要因により，未だ立法化を実現出来ていない。新政権発足後，蔡英文総統は情報保全面の議題を重視し，迅速な立法化の実現を支持し，故に調査局は同法草案の積極的な研究・作成を進めている。

しかし，本年3月10日徐國勇・行政院報道官は，前日9日に同草案が行政院政務委員の審査により「返却」されたことを発表した。草案が審査を通過しなかった理由として，「人二」復活に対する懸念が挙げられている。徐報道官は，こうした懸念を理由に同草案が退けられたことに遺憾の意を示しつつも，法務部は研究・作成中である旨示した。

7　人二：「人事室第二弁公室」の略称。戒厳令期に存在した法務部直轄の監視及び思想統制機関。陳水扁政権期に廃止された。台湾において「人二」は白色テロの代名詞とされる。

交流協会事業月間報告

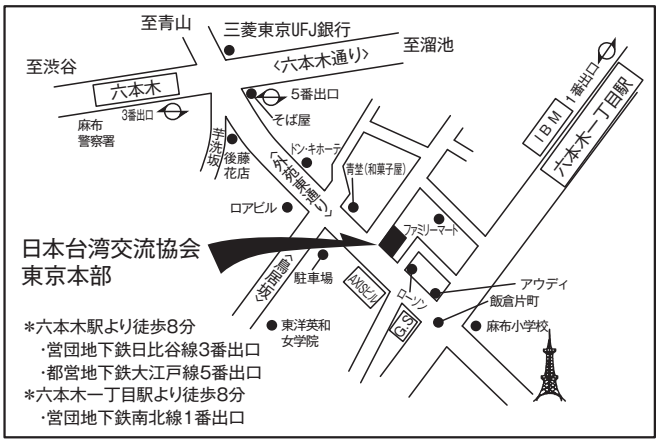
主な交流協会事業（3 月実施分）

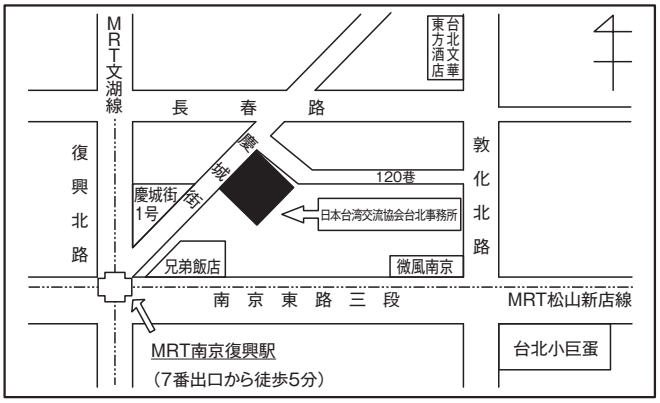
3 月	場所	内容	主な出席者（日）	主な出席者（台）
2 月 26 日～3 月 4 日	東京，福岡等	中堅指導者招聘		林威呈・科技部南部科学工業園区管理局長
1～3 日	東京	日台漁業委員会第 6 回会合	柿澤総務部長 (本部）　他	蔡明耀・亜東関係協会秘書長　他
2 日	東京	日本台湾交流協会理事会		
2 日	桃園	桃園大眾捷運股份有限公司主催 MRT 開通式典	中杉主任 (台北）	陳建仁・副総統賀陳旦・交通部長，鄭文燦・桃園市長，柯文哲・台北市長，李四川・新北市副市長　他
3 日	東京	台湾情勢セミナー	石黒貿易経済部長 (本部）　他	林威呈・科技部南部科学工業園区管理局長，洪儒生・駐日台北経済文化代表事務所科技組組長　他
3 日	東京	日台ビジネス交流推進委員会・日本台湾交流協会奨学金留学生との交流会	舟町専務理事，石黒貿易経済部長 (本部）　他	呉俊澤 ・台湾貿易センター東京事務所　所長　他
4 日	台北	台北日本人学校中学部卒業式出席	花木副代表 (台北）	
4 日	台中	台中日本人学校中学部卒業式出席	谷川主任 (台北）	
4 日	台北	台湾大学日本研究センター大学院生ワークショップ（協力事業）	阿部専門調査員 (台北）	徐興慶・台湾大学日本研究中心主任　他
5 日	新北	第 6 回謝謝台湾「日台･心の絆」(後援名義事業）	西野主任，清重派遣員 (台北）	
5～12 日	東京	「JENESYS2016(経済）」台湾第 4 陣来日		徐佳青・民進党副秘書長　他
7 日	高雄	私立樹徳高級家事商業職業学校応用外国語学科卒業成果発表会に中郡所長（高雄）が出席		陳茂霖・樹徳家商校長他同校関係者，中島清明・国立高雄第一科技大学応用日語系主任，黄幸素・義守大学副教授，蘇富玲・和春技術学院応用外語系講師，他
7 日	台北	安全対策委員会	浜田部長，谷川・水田主任 (台北）	
8 日	台中市	領事出張サービス	水田主任 (台北）	
7～14 日	高雄, 台南, 台北	JENESYS2016 派遣・大学生訪台（13 日報告会・招聘生同窓会）	熊本・崇城大学学生 塩澤主任 , 明賀主任 (台北）	JENESYS 招聘プログラム参加者
11 日	台北	311 東日本大 6 周年追悼感恩会	沼田代表，花木副代表，浜田部長 (台北），山下・日本人会理事長他	邱義仁・亜東関係協会会長　他
11 日	桃園	桃園地区高校生日本語・日本文化体験活動	内田専門家，藤島専門家 (台北）他	桃園地区高校生
11 日	台北	台北日本人学校小学部卒業式出席	沼田代表 (台北）	
11 日	台中	台中日本人学校小学部卒業式出席	谷川主任 (台北）	
11 日	高雄	高雄日本人学校卒業式に中郡所長が出席 .	貝谷・台湾日本人会高雄支部長，車・ＰＴＡ会長，中郡所長 (高雄）	呉軒銘・高雄市苓雅区中正国民小学校長，蔡智文・高雄市鹽埕国民中学校長

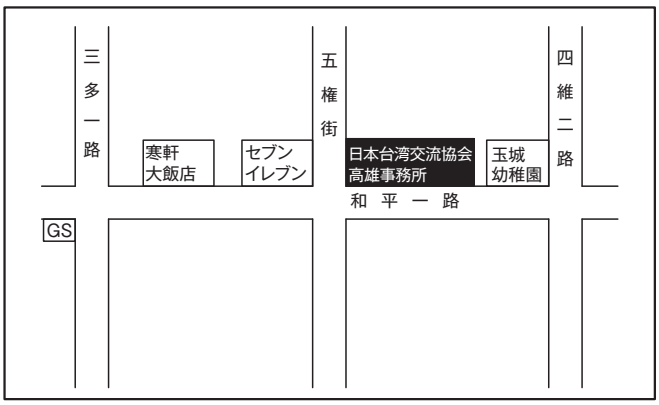
12 ～ 15 日	東京	文化人招聘（政治大学学長一行）		周行一・政治大学学長，江明修・同大社会科学院院長，李世暉・同大日本研究プログラム主任
15 日	東京	日本台湾交流協会評議員会		
15 日	新竹	領事出張サービス	小林主任 (台北)	
15 日	台北	台北日本人学校運営委員会出席	浜田部長，谷川主任 (台北)	
15 ～ 27 日	台北	日本書海社師範展(後援名義事業)(17 日開幕式)	谷村雋堂・日本書海社理事長　他 塩澤主任 (台北)	林國章・国立国父記念館館長，陳濟民・文化部主任秘書　他
15 ～ 16 日	台中，台北	JNTO 主催旅行会社セミナー	中杉主任 (台北)	
16 日	台南	移民署台南市サービスステーションにおいて領事出張サービスを実施	鈴木主任（高雄）他 1 名	
17 日	台北	近鉄運通３０周年記念式典，挨拶	鳥居・近鉄エクスプレス社長，花木副代表，南澤主任 (台北)　他	
18 日	台北	2017 台北つつじ祭り	花木副代表，中杉主任 (台北)	柯文哲・台北市長，簡余晏・台北市観光伝播局長他
18 日	台北	奨学金留学生訪日壮行会	松田副長（本部），明賀主任，塩澤主任 (台北)	頼浩敏・聯誼会名誉理事長　他
18 日	台北	日本語パートナーズ台湾 1 期中間研修	塩澤主任，白田調整員，日本語専門家，日本語パートナーズ (台北)	受入校カウンターパート日本語教師
20 日	台北	佐賀県商工会議所・台日商務交流協進会 MOU 調印式	井田・佐賀県商工会議所会長，水ノ江主任，南澤主任 (台北)　他	江丙坤･台日商務交流協進会会長，蔡偉金・亜東協会副秘書長　他
21 日	東京	台湾知財セミナー	舟町専務理事，石黒貿易経済部長 (本部)　他	洪淑敏・経済部智慧財産局長，胡秉倫・経済部智慧財産局商標権組高級審査官兼科長　他
22 日	東京	日台ビジネス交流推進委員会幹事会	舟町専務理事，石黒貿易経済部長 (本部)　他	
23 日	大阪	台湾知財セミナー	舟町専務理事 (本部)　他	洪淑敏・経済部智慧財産局長，胡秉倫・経済部智慧財産局商標権組高級審査官兼科長　他
24 ～ 26 日	台北	地域の魅力海外発信支援事業「多彩日本」(レセプション，イベント)	あかま総務副大臣，沼田代表，花木副代表，濱田部長，西野主任 (台北)　他	" 邱義人・亜東関係協会会長，蕭美琴・立法委員，林志嘉・立法院秘書長　他
24 ～ 28 日	台北	日台キッズラグビー交流 2017（後援名義事業）	台湾日本人会ラグビー同好会	
25 日	台北，高雄	第 5 回日本語教育研修会	石黒圭・国立国語研究所教授，内田専門家，藤島専門家，黒岩専門家 (台北)	台湾日本語教師
25 日	台北	俳都松山俳句キャラバン in 台北（後援名義事業）	松山市関係者，明賀主任 (台北)	台北俳句会　他
25 日	台南	第 8 回紙芝居コンクールに中郡所長が祝辞（南台科技大学）	北村克紀･日本航空高雄営業所長，園部暁子・高雄日本人学校小学部長，黒岩幸子日本語専門家 (高雄)	李坤崇・南台科技大学副校長，鄧美華・南大科技大学応用日語系主任，蘇懿禎・絵本作家
25 ～ 31 日	愛知, 茨城, 東京	「JENESYS2016 経済」台湾第 5 陣（経済・貿易研究者 12 名）来日		
30 日	高雄	2017 台湾インドネシア産業連携サミット	山下次長（高雄），大橋台北事務所主任	李世光・経済部長，劉振中・行政院政務委員，史哲・高雄市副市長他
30 日～ 4 月 2 日	東京，群馬	オピニオンリーダー招聘(姚人多･総統府副秘書長)		

交 流　2017年4月　*vol.913*

平成29年4月25日　発　行
編集・発行人　舟町仁志
発　行　所　　郵便番号　106－0032
東京都港区六本木3丁目16番33号
青葉六本木ビル7階
公益財団法人　日本台湾交流協会　総務部
電　話（03）5573－2600
ＦＡＸ（03）5573－2601
ＵＲＬ http://www.koryu.or.jp
表紙デザイン：株式会社　丸井工文社
印　刷　所：株式会社　白樺写真工芸







台北事務所　台北市慶城街28號　通泰大樓
Tong Tai Plaza., 28 Ching Cheng st.,Taipei
電　話（886）2－2713－8000
ＦＡＸ（886）2－2713－8787
URL http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3 contents.nsf/Top

高雄事務所　高雄市苓雅区和平一路87号
南和和平大樓9Ｆ
9F, 87 Hoping 1st. Rd.,Lingya Qu,kaohsiung Taiwan
電　話（886）7－771－4008（代）
ＦＡＸ（886）2－771－2734
URL http://www.koryu.or.jp/kaohsiung/ez3. contents.nsf/Top

公益財団法人
日本台湾交流協会
Japan-Taiwan Exchange Association